

Q1、現在の会員数  
は？

『平成4年に前身の「関東信越廃タイヤ中間処理業協同組合」が8社でスタート。加入数も順調に増加し、平成16年に「日本タイヤリサイクル協同組合」に改称した。その後、平成27年に現在の「協同組合日本タイヤリサイ



クル協会』に改称して今年25周年を迎えるが、現在会員は30社で、間もなく1社加入予定だ』

Q2、廃タイヤ発生量と処理料金の動向は

### 排出事業者の皆様に応じた費用負担を…

協同組合 日本タイヤリサイクル協会 顧問 **中野榮次**さん

『タイヤ協会の統計によると、このところだいたい約100万ト前後で推移している。』

大口利用先である製紙、製鐵会社が、石炭など燃料価格の上昇

Q4、その他、今年

の取組みは

『「廃タイヤの適正処理」、「タイヤ業界との協調」を基本理念とし、目標は「当協会を中心とする廃タイヤ業界の地位向上」と、

## この人に 4つの質問

や、熱源としての質、環境問題対策等で廃タイヤチップの使用量が高まって行ったが、最近の石炭燃料などの価格下落などを背景に、廃タイヤチップの納入価格が初めて切り下げ

『個々の会員が努力しても解決できない課題・問題にJSRAとして取り組むこと』以上を新体制の理事会で再確認した。29年度はその為の方策を着実に実施していく。会員の拡大もその一つであり、有力会社へアプローチしていく』